

平成26年10月31日

愛知県 地域包括ケアモデル事業、在宅医療連携拠点推進事業 合同報告会

受託事業名 在宅医療連携拠点事業

あたたかなまち南区、 皆で紡ぐ医療と福祉の セーフティーネット

事業所名：名古屋市南区医師会

事務局： 笠寺病院 片桐健二

Mioo（ミオー）



当地域の特徴

医療・介護・福祉（行政）との 組織間連携体制が強固！

- 当地の強みと活動

地域の中核的病院と診療所との連携を深める目的で、平成7年から組織された「南和会」が今年で19回目となり、強い一体感がある医師会である。医師会長はじめ役員は、区内の医療と福祉に関する連絡会に積極的出席して多職種との情報交換を行っており、本事業もその基盤の上に円滑に推進されはじめた。

- 当地の弱みと活動課題

南区は医療や介護が必要な独居者や生活困窮者が潜在しており、本ネットの目からこぼれ落ちている住民がみえる。住民の生活実態に対応した医療介護福祉の体制づくりが行われていない事が課題である。

南区の組織図

在宅医療推進調整会議

区長、保健所長、社協会長、医師会長、
歯科医師会長、薬剤師会長、看護協会役員



合同会議も

在宅医療推進実務者会議（上記の組織から担当者を派遣）
区役所（福祉課長）、保健所（保健師）
いきいき支援センター（主任ケアマネ、看護師）など、
多職種で構成

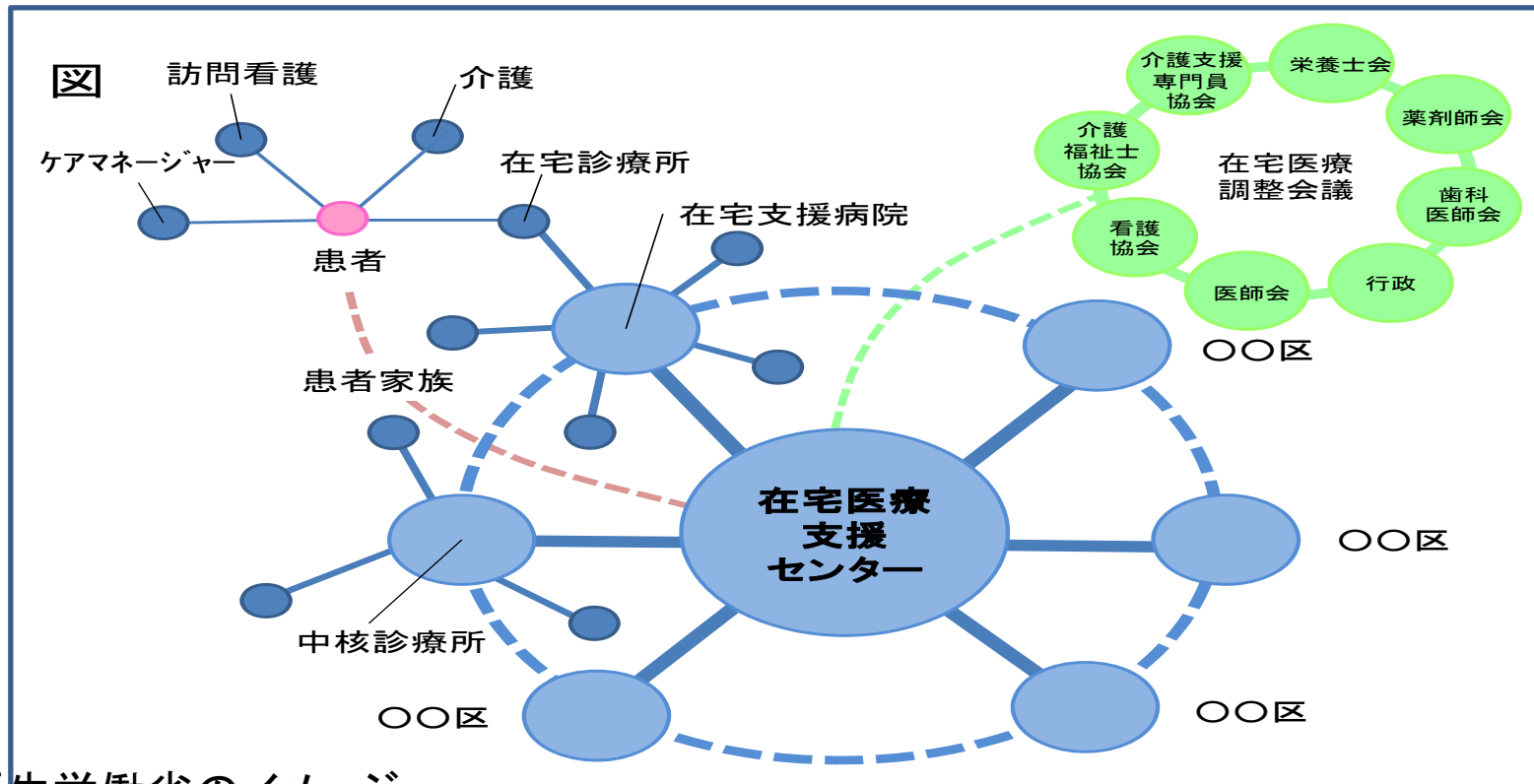


移行？

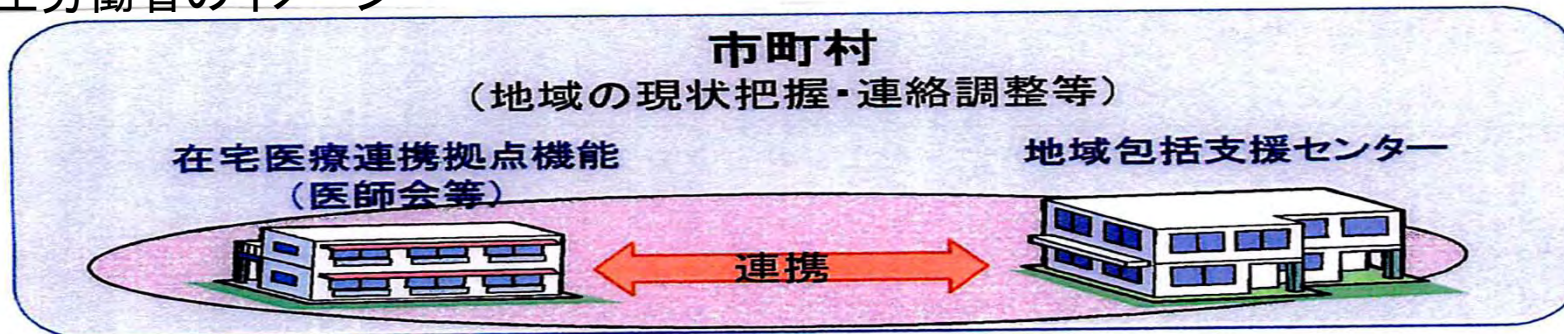
在宅医療支援センター

地域の在宅医療の調整と救急センター

究極は在宅医療支援センター



厚生労働省のイメージ



名古屋市南区在宅医療推進調整会議 名簿（敬称略）

2014. 5. 30

		氏名		会員	実務者
名古屋市南区医師会	会長	伊藤剛	ごうクリニック院長	○	
名古屋市南区医師会	副会長	大谷由幸	豊田クリニック院長		○
名古屋市南保健所	所長	氏平高敏		○	
名古屋市南保健所	保健予防課主査（保健看護）	鬼頭まり子			○
名古屋市南区役所	区長	横田明典		○	
名古屋市南区役所	福祉課長	原紀			○
名古屋市南区役所	福祉係長	藪下真利			○
名古屋市南区役所	介護保険係長	白木一朗			○
名古屋市南区歯科医師会	会長	今井力	今井歯科	○	
名古屋市南区歯科医師会	地域保健担当理事	大河内明	もとほしざき歯科		○
愛知県南区薬剤師会	会長	中村純子	なかむら薬局	○	
愛知県南区薬剤師会	副会長	大津稔彦	相談薬局の天津		○
愛知県南区薬剤師会		舞中誠	クオール薬局笠寺店		○
名古屋市南区社会福祉協議会	会長	浅見吉郎		○	
名古屋市南区社会福祉協議会	事務局長	石黒司			○
名古屋市南区社会福祉協議会	事務局次長	山根真弓			○
南区介護事業所連絡会	会長	首藤秀一	かなめ病院事務長		○
北部いきいき支援センター	センター長	菊池智子			○
南区訪問看護ステーション	統括所長	中村美喜			○
南区在宅医療推進調整会議事務局		飯田威夫	笠寺病院	○	
南区在宅医療推進調整会議事務局		片桐健二	笠寺病院	○	
南区在宅医療推進調整会議事務局		鈴木学	笠寺病院		○
南区在宅医療推進調整会議事務局		服部誠	笠寺病院		○
南区在宅医療推進調整会議事務局		臼井資春	笠寺病院		○

担当事務局

医療法人笠寺病院

実務担当者(各1名): 医師、事務長、副事務長、企画室長、
病診連携室長、 訪問看護室長

助言者: 南区医師会長、副会長(在宅担当)
区長、福祉課長、保健所長、保健予防課主査

現状: 全員が日常病院業務と兼任であり、相当にオーバーワークとなりつつある。
また、調整会議の実務者会議もそれぞれの業務の合間での会合であり、“実務”を担ってもらうことは難しい。

解決策: 早急に支援センターを構成して専任体制を整える必要がある。

地域の顔の見える関係作り

アウトリーチの必要性

(1) 在宅医療推進のための組織作り(前述)

区役所、保健所、社協、医師会長、歯科医師会長、薬剤師会会長へ
拠点事務長が直接出向き組織作りの下準備を行う。

(2) まず、地域の在宅医療と福祉の資源の 把握と在宅医療の問題点を明確にする

アンケート作成時も三師会等へ直接出向き、内容についての意見を伺う。

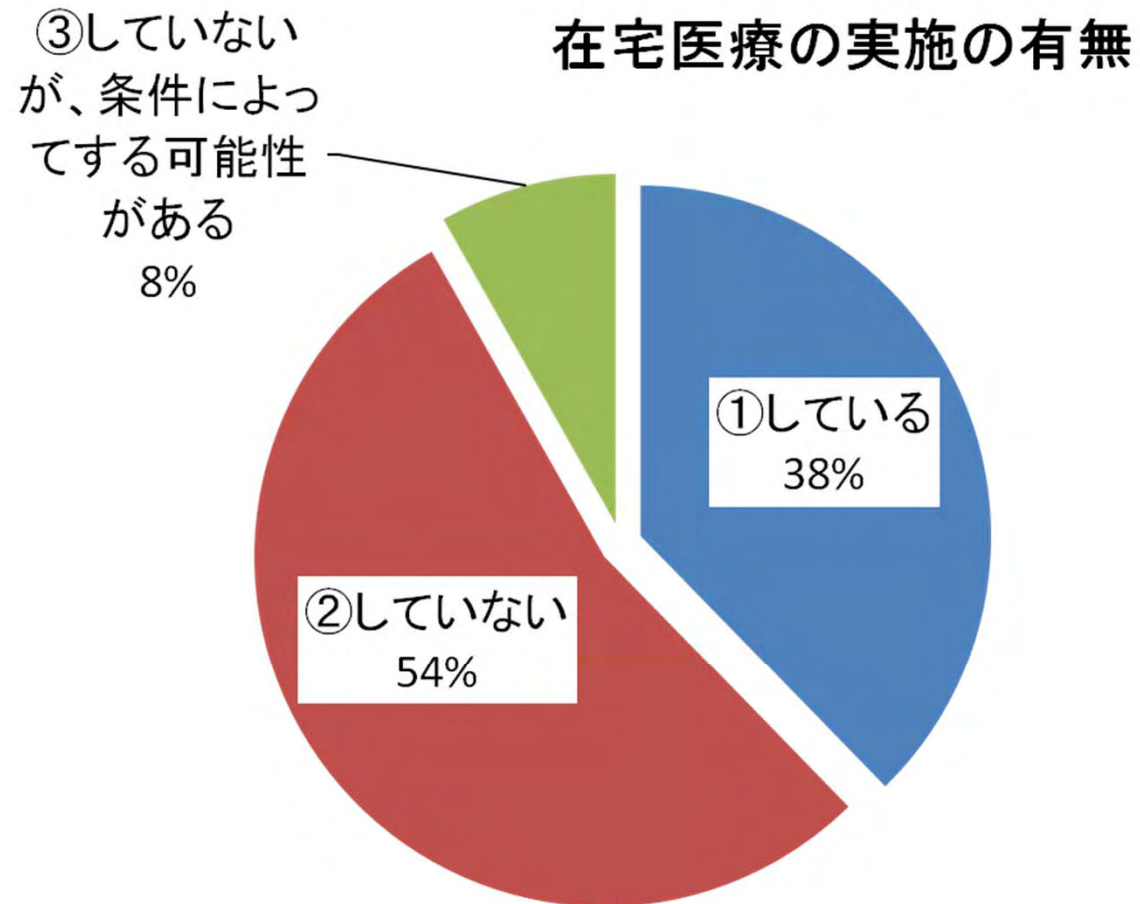
(3) 多職種連携の前に職種内連携を推進

医師会の在宅研究会及び、訪問看護事業所連絡会の立ち上げ時に
担当者レベルで顔の見える関係ができていた。

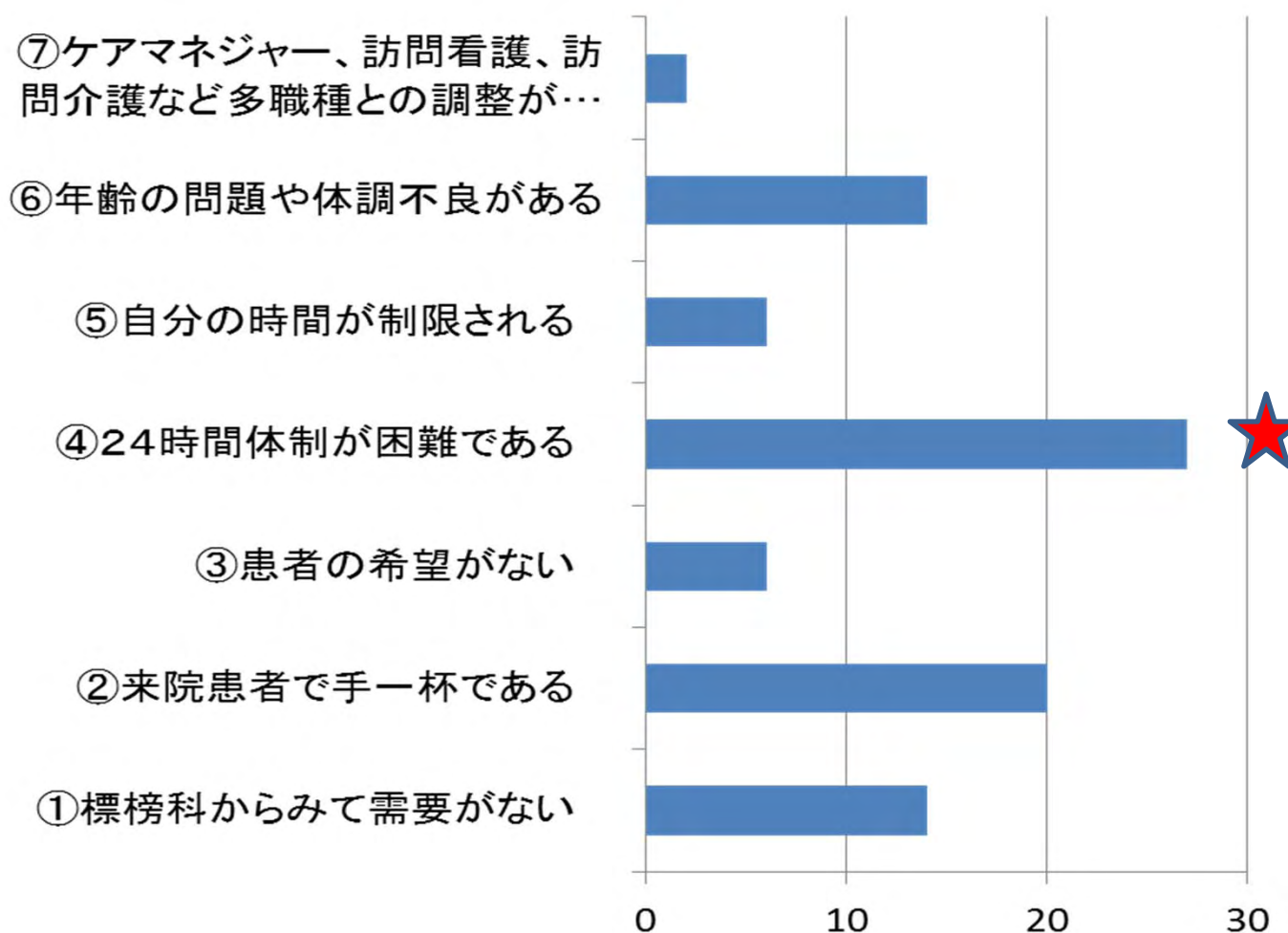
在宅医療実態調査 平成26年2月26日～3月末日

対象機関	発送数	回収数	回収率
医師会	100	63	63%
歯科医師会	64	46	72%
薬剤師会	66	46	70%
ケアマネ	46	35	76%
訪問介護	42	22	52%
デイサービス	41	22	54%
グループホーム	11	7	64%
訪問看護	13	7	54%
デイケア	12	11	92%
老健	7	7	100%
住宅型有料	8	5	63%
介護付有料	5	4	80%
特養	6	5	83%
合計	421	280	67%

まだ不十分な在宅診療

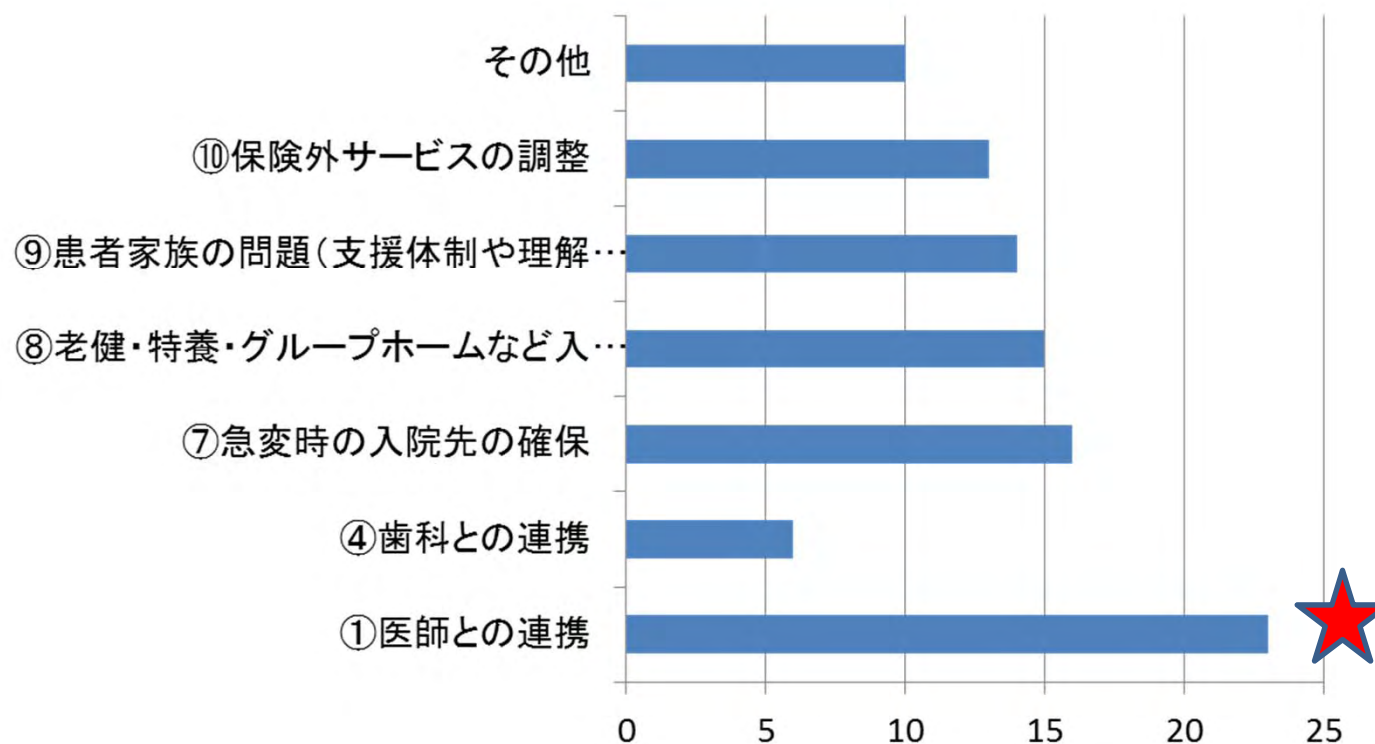


24時間対応が困難



多職種連携の改善が必要

ケアマネからみて 改善が必要と思われる点



南区運命共同体（まずは職種内連携を！）

① 医師間連携のために

南区医師会在宅医療研究会

南区中小病院医療連携会議

南区病病連携情報交換会

② 訪問看護連携のために

南区訪問看護事業所連絡会

③ その他

訪問介護事業者連絡会

歯科医師会と薬剤師会は随時

南区医師会在宅医療研究会

南区医師会館

第1回 平成26年8月23日 参加16医療機関

- 1、研究会の趣旨
- 2、在宅医療連携拠点事業と南区の今後の取り組み
- 3、医療機関アンケートの結果と問題点
 - 24時間対応、副主治医制度、在宅当直制度
 - 中小病院と基幹病院の後方支援
- 4、医療機関間の連携の取り方
- 5、ICT(カナミック)の説明
- 6、今後のロードマップ

第2回 平成26年10月3日 参加22医療機関

講演:名古屋市医師会理事 在宅担当 真野寿雄
「名古屋市医師会在宅医療モデル
在宅医療支援システムの説明」

質疑応答

第3回 予定 平成26年11月11日